

日本共産党新潟市議会議員

# いがらし完二

五十嵐かんじ

## 市議会

## つうしん

2012年夏季号

発行：日本共産党新潟市議会議員団  
市議会議員 五十嵐完二  
連絡先：議員団控室 TEL 226-3450  
事務所 東区古川町8-9  
TEL・FAX 275-6881  
携帯電話 090-4839-8407

日本共産党の五十嵐完二市議会議員は、昨年4月の選挙以降毎回の議会で一般質問を行い、住民の声を届けてきました。今年の6月議会では（1）新潟州構想（2）地域公共交通（3）万代島ルート線の3つのテーマをとりあげ、一問一答で市長の姿勢をたどしました。その内容を報告します。



## 地域公共交通

### 五十嵐「区バス等の利便性をはかり住民の交通権を守れ」

## 区バスの現状

### 一日7便程度でいいのか？

新潟市では現在「新たな交通システム(BRT)」「都心アクセス」「生活交通」の3つの視点から取組みをすすめています。大きく取り上げられているのはBRTだけです。このことに対して「いつも中心部だけ」との声が多く、それは区バスをはじめとする生活交通の不便さの裏返しとなっています。

各区で運行されている区バスは1日7便程度しかなく、区役所に朝8時45分に着く区バスを利用すると帰りは13時まで待たなければなりません。

新潟市の機構の一つである新潟市都市政策研究所はこの間新潟市の公共交通の分析をおこない、「新潟市の公共交通政策の充実度は、政令市中最低レベルで、県庁所在地の中でも下位に甘んじている」「体制、施策内容とも最小限」としています。

五十嵐市議は、これらの点を指摘し、「区バスの便数の増加や新ルートの創設を区で自由にできるように財源と権限を区に移すべき」とただしたことに對し、市長は「将来的には区の実状にあった地域交通へ改善していくことをめざす」と答えました。



## 新潟州構想

### 五十嵐「新潟州にならなければ解決しない問題は何かがあるのか」

5月1日にまとめられた新潟州構想検討委員会の「報告書」。

この最終会合でも委員の中から「本当にわかりにくい。いままでの会議も全部公開されているが、分かる方というのは少ないと思う」との発言がありました。

辞任した委員は著書のなかで「羊頭狗肉の新潟州構想」とし、この構想がいかにか「絵空事なのかについて検証」しています。

五十嵐市議は、「最大の眼目だった県と新潟市の合併がなぜ具体化しなかったか」「新潟州にならなければ解決しない問題はなにか出てきたのか」等の質問を行い、こんな検討をしても不毛の議論となり時間のムダだと指摘しました。

